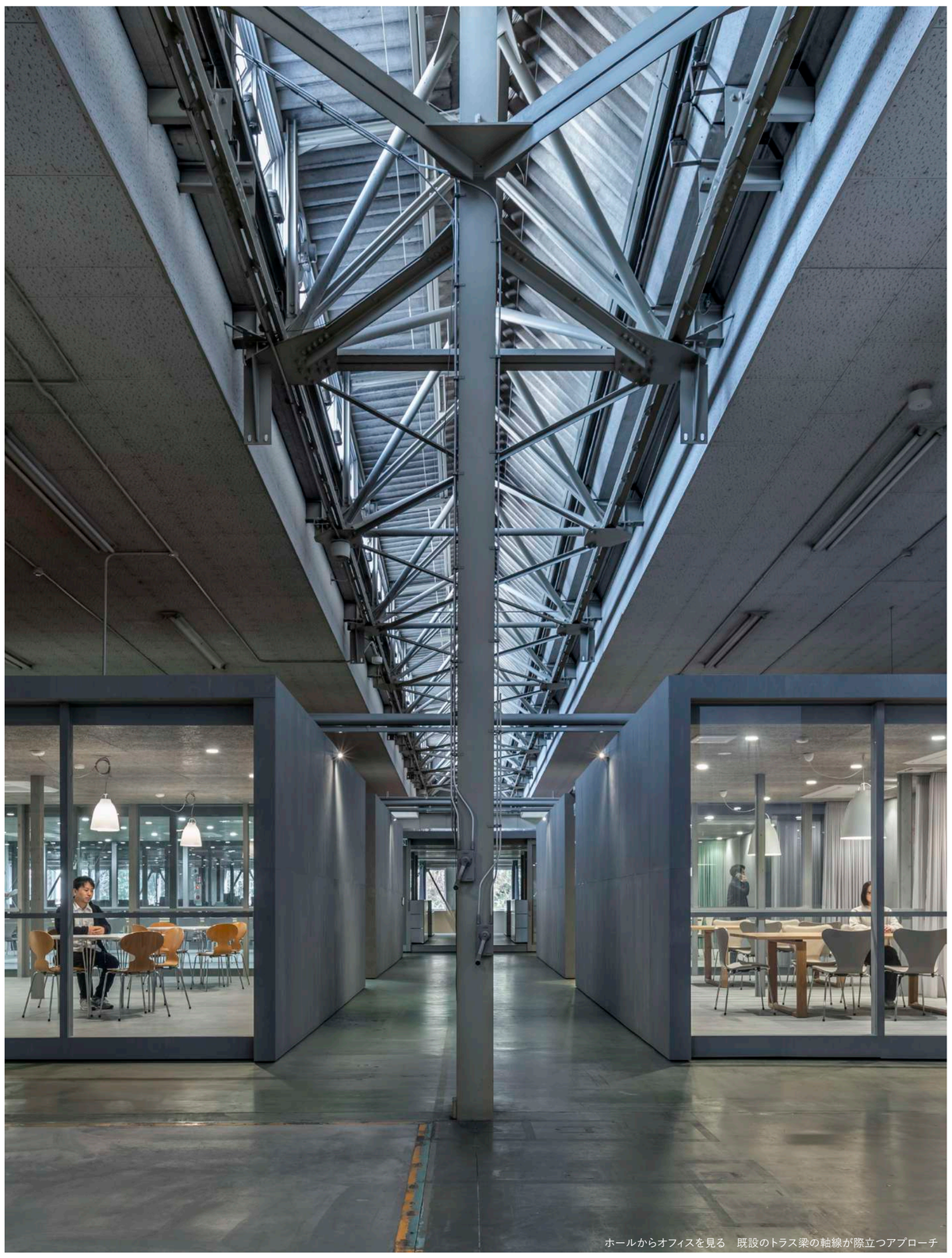
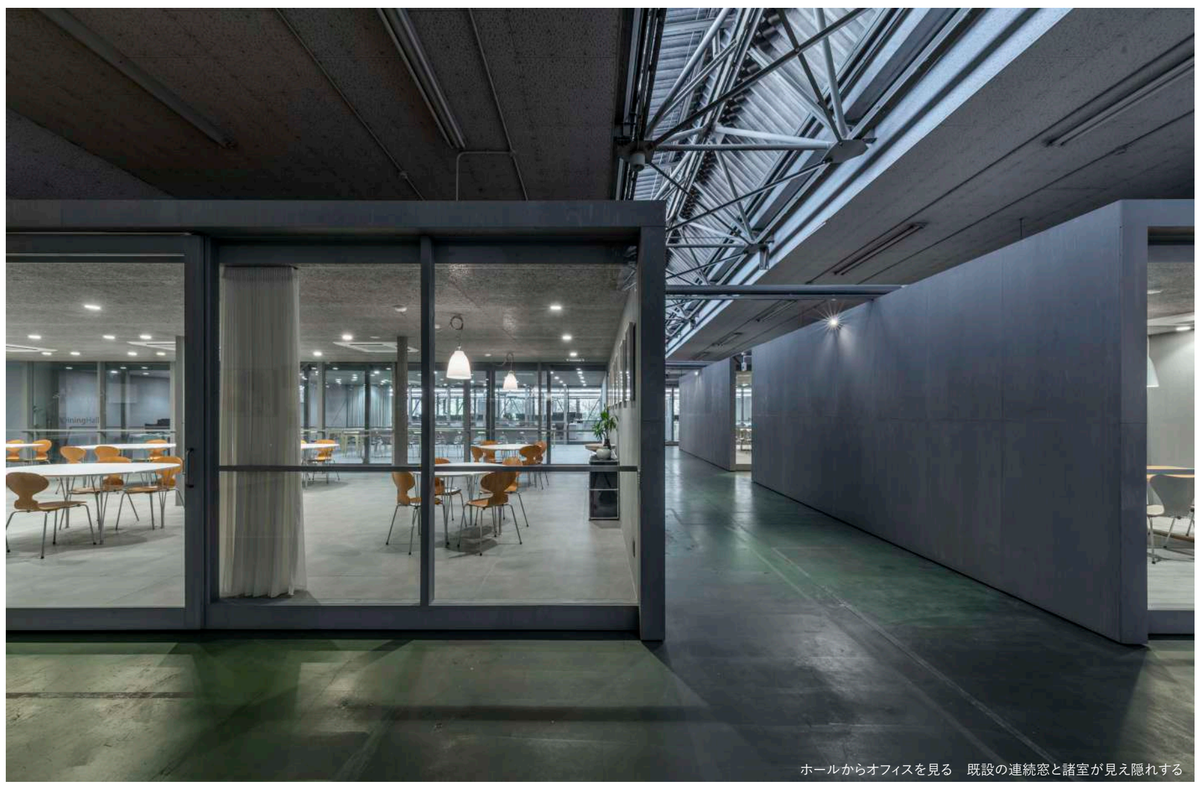
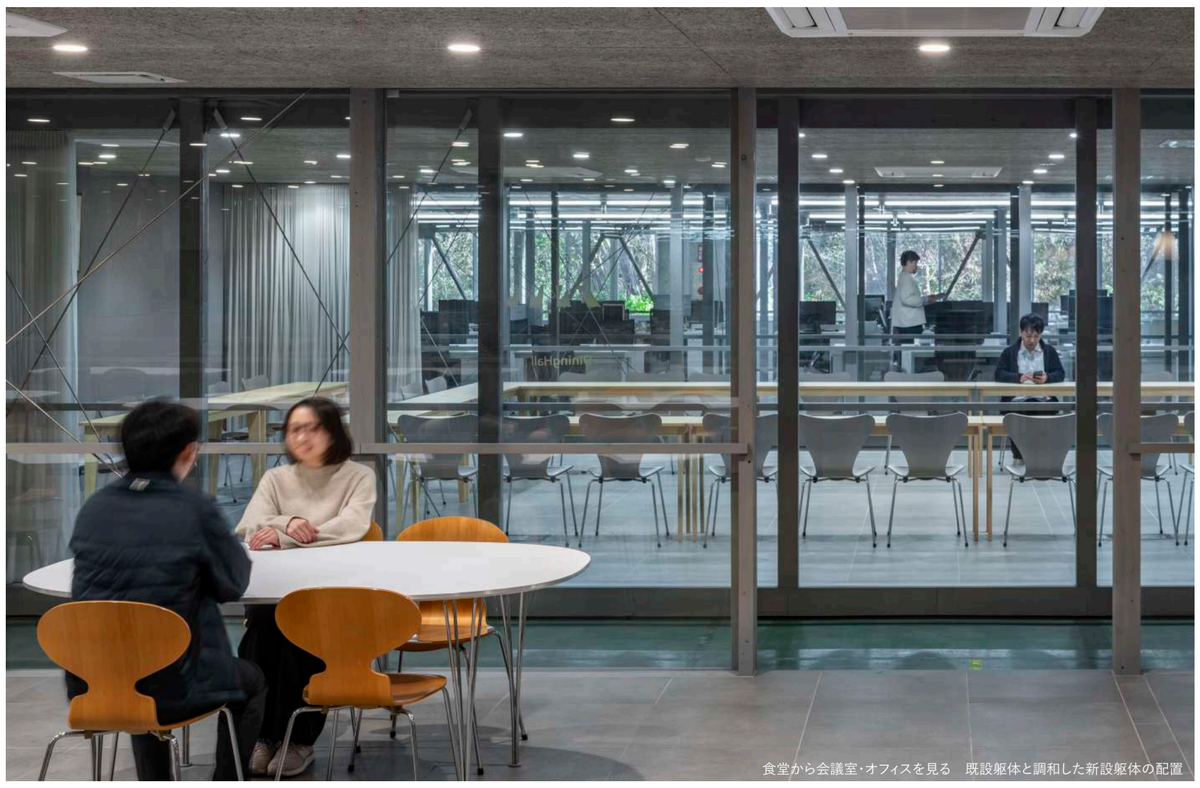
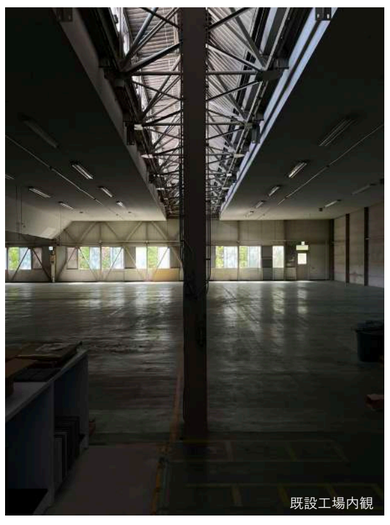

ホールからオフィスを見る　既設のトラス梁の軸線が際立つアプローチ


ホールからオフィスを見る　既設の連続窓と諸室が見え隠れする


食堂から会議室・オフィスを見る　既設躯体と調和した新設躯体の配置

施設外観


既設工場内観

1.背景と目的・街並みへの眼差し：　地域性・商業性・社会性・話題性

タイムレスな価値を追求するタイルメーカー

岐阜県多治見市の緑と地勢の豊かな山あいに本社工場を構えるタイルメーカー。一般客から建設業者まで多くの人が訪れる本社工場+オフィスの改修計画である。建築主は「世界の街並みを、より上質にしていきたい」と理念を掲げタイムレスな価値を追求したブランドの向上を目指しチームのデザインや美術への好奇心が強く造詣が深い。ブランドイメージを体現して支え発信する、普遍的な美しさをもつ空間を求めて双方にアイデアを出し合い協働してきた。

2. 既設状況の読み込み：　デザイン性

トラス梁の軸線・連続窓と緑の風景

工場は大手ゼネコンによる鉄骨造2階建てで築36年ほどとなる。1階は主に製造ライン、2階は主に倉庫とオフィスである。2階倉庫は十分な採光があるため日中消灯して使用しておりハイサイドライトが象徴的にトラスの軸線を照らす。床には使用と補修の履歴が重なり既設の連続窓の型ガラスごしの光を鈍く反射していた。窓を開けると傾斜地と林の緑の風景が目の前に迫り心地よい風が抜けた。

3. ゾーニングと配置：　デザイン性・経済性

3列5つのフレームによる奥行きと緩衝空間

存外に環境のよい倉庫空間に対し旧オフィスは従業員が多く窓が小さいため窮屈に感じられた。そこで倉庫のうち営業に差し支えない最大の面積を新しいオフィスに充て、より環境のよい窓に近いエリアをオフィス、奥側の空間を共用室とした。オフィスとしてはかなりゆとりのある面積に、連続窓に平行に3列5つのフレームを配置した。奥へとつづくような奥行きと、余白には緩衝空間が生まれた。フレーム内に工事範囲を絞ることで建設費・設備費・ランニングコストを低減した。

4. 意匠と構造・既設空間との調和：　デザイン性・地域性・商業性・社会性・話題性

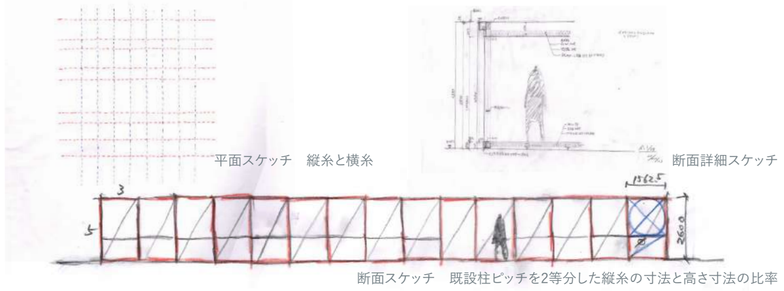
新旧の「縦糸と横糸」のグリッド

既設空間にフレームを挿入するにあたっては既設の柱ピッチの2等分線を縦糸に、新しい3列のフレームを横糸にグリッドを引き、新旧の構造を調和して既設空間や連続窓に対して美しく配置した。梁下で極力高さをとったフレームの高さ寸法は縦糸の寸法と美しい比率となった。またトラス梁の軸線をオフィスへのアプローチに見立てて通路を通すことで3列5つのフレームの配置となった。床には自社製品のタイルを貼り、柱は東濃桧、壁も地場産の桧合板で仕上げ時間と共にエイジングしていくものとした。

5. シークエンス・街並みへの眼差し：　デザイン性・地域性・商業性・社会性・話題性

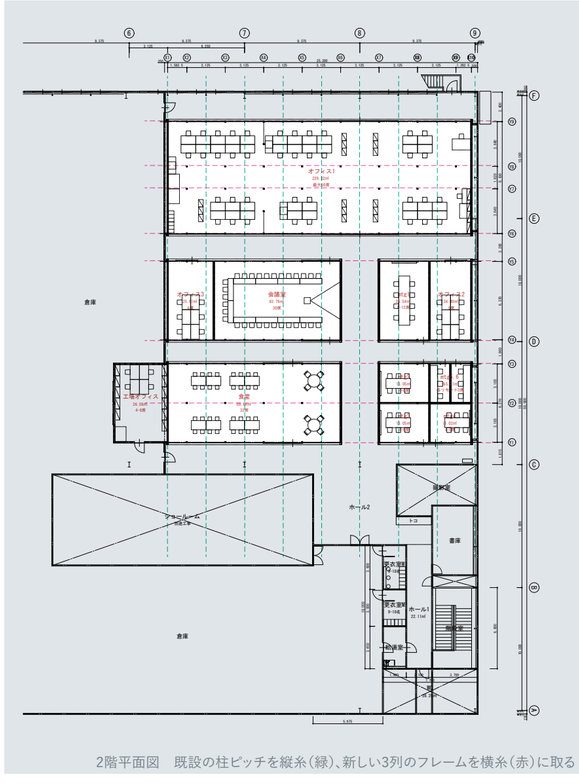
環境と浸透し合うフレーム

こうしてできた3列5つのフレームは床のタイルを照らしながら、新しい6面の窓は既設の連続窓の風景を奥へ奥へと写して複雑で重層的なシークエンスを生み出している。フレーム相互の人や空間の見え隠れに奥行き感が心地よい。オフィス越しに見た連続窓が壮大な屏風絵に見える。既設空間に美術品を飾ればフレームは背景となりギャラリーのようでもある。既存の空間を様々な視点で読み込み、その要素を象徴的に取り扱うことで新旧を調和しながら相互に引き立て合う新しい美しさを生み出した。この方法や姿勢は施設の改修のみならず、建築主が目指す街並みの更新や創出にも繋がるものと考えている。


平面スケッチ　縦糸と横糸

断面詳細スケッチ

断面スケッチ　既設柱ピッチを2等分した縦糸の寸法と高さ寸法の比率


2階平面図　既設の柱ピッチを縦糸（緑）、新しい3列のフレームを横糸（赤）に取る

オフィスからホールを見る　連続窓の風景が新設の6面の窓の間を何重にも反射する

オフィスの奥の緩衝空間　3列5つのボリュームの間の通路が内外・相互の緩衝空間となる